

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2023年10月1日 241号  
世界平和地球村の建設と自然環境の保護



ディアナ村の教師たちからのプレゼントを手に。8月19日



ディアナ校舎の塗装



養殖パクーの水揚げ



釣り大会で釣ったパクー

## 若者よ、パンタナールを飲み込め!

去る8月11日より、南北米福地開発協会主催の「レダプロジェクト体験プログラム」が催され、日本の青年をメインとする約30名が参加、パンタナールを体験しました。以下、プログラムに同行した藤生輝彦青年局長の報告の抜粋です。

プログラムを貫くスローガンは「パンタナールを飲み込め!! 味わった経験を成長の糧にしよう」です。これはレダプロジェクトの提唱者、文鮮明総裁夫妻の理念に由来するものです。「パンタナール精神とは、良いものも悪いものもそのまま飲み込んで消化し、自分が生きることができるよう影響を及ぼしながら、互いに大きくなっていくことです。」

**8月12日** メノール教徒の建設した「ロマ・プラタ」 「フィラデルフィア」という二つの都市を訪問。その開拓史博物館を見学し、清潔で整然とした街並みに触れました。レダにとっても、コミュニティ造りのモデルとして参考になるものです。

**8月13日** フェルテ・オリンポの教会を訪問。教会長の挨拶と、当時の修練会風景や現在に至るまでのお話を伺いました。フェルテ・オリンポ市役所では、市長、市会議員、次期チャコ地方議員の方々とお会いし、市民と交流しました。同市は歴代の青年奉仕隊を歓迎・協力してくれています。 「レダプロジェクト体験プログラム」へも期待を寄せています。

**8月14日** 南米大陸会長夫妻やブラジル教会会長らがレダに足を運ばれ、日本から来た青年を歓迎、激励してくださいました。私たちへの期待を感じるとともに、青年が担っていく使命について考える場となりました。

**8月15日～17日** 3日間、レダで進めている各プロジェクトの「体験学習」をしました。内容は、パクー養殖、養豚、農業、建築、島田家の証と生活体験談の共有などです。それぞれのプロジェクトを通して、開拓当初から歩まれた先輩方の苦労や精誠、文先生夫妻に対する欽慕を感じました。また先住民（チャマコ族）の生活基盤の向上や、レダの経済的自立を目指す上での課題なども見えました。

**8月18日** レダから船に乗り、15kmほど上流にあるカナン牧場を訪問しました。約1000頭の牛が放牧がされています。牧童たちが住み込み、馬や農機を駆使して牧場を管理しています。ここでは牧場の見学と乗馬体験を行いました。

**8月19日～20日** レダの近隣には、先住民の暮らす村がいくつかあります。今回は、レダの上流約60kmに位置する、ディアナ村を訪れ、奉仕活動をしました。(次面につづく)



ディアナ村の子どもたちと。8月19日



移動・宿泊・食事に用いた船。ディアナに向かう朝に。8月19日



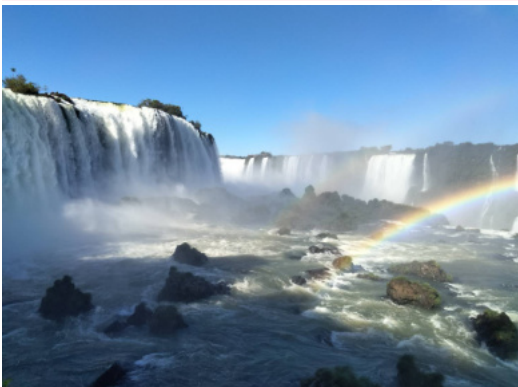
釣り大会で大物パクー。8月22日



ディアナ村の子どもたちと。8月20日



ディアナ村にて。8月20日



世界遺産イグアスの滝を間近で。8月26日



中田実氏がグアラニ族の伝道を語る。8月25日



ピーターパウロさんと。8月23日

(二面より続く) 活動の内容は、子供たちとの交流(サッカー、バレーボール、折り紙、だるまさんが転んだなど)、学校周辺のごみ拾い、学校の壁のペンキ塗りなどです。村の言葉はチャマコ語とスペイン語。言葉では通じ合えなくてもジェスチャーや触れ合いを通して、子供たちと心情交流を行うことができ、言語や国境の壁を感じる以上に「One Family Under God (神の下にある一つの家族)」の境地を感じる体験でした。

**8月21日〜22日** パラグアイ川で釣り大会が催されました。釣りを通して精诚の歩みを体験していく時間です。それぞれが釣り道具一式を持って、川岸からの投げ込み釣りと、舟釣りをしました。炎天下での釣りで忍耐力を鍛えられます。結果、皆の精诚が繋がって、レダのベテラン釣り師である水落氏も驚く、4kg以上のパクーを釣り上げることができました!

**8月23日** 各人がプログラムで感じてきたこと、決意できた内容を証する場を持ちました。昼の強い日差しやタイトな日程で体調を崩す青年もいましたが、日本では味わえない経験や感動を通して、神様の愛に触れました。

その後、従業員を含むレダの皆さん全員と一緒にアサード(焼き肉)をいただき、レダを出港しました。船旅の中、かつて文先生の船の運転手を務めたピーターパウロさんの証を聴きました。当時の貴重なエピソードを聴き、南米にかけられた願いを知ることができました。

**8月25日** 前日からの長い移動を経て、パラグアイ南部のグアラニ族の村に到着。レダの前所長、中田実氏より、グアラニ族の伝道のお話を伺いました。修練会を幾度も行い、多くの村人たちに祝福を与えておられます。

**8月26日** 世界三大瀑布の一つで、ユネスコ世界遺産にも登録されている「イグアスの滝」を訪問。神が創られた自然の美と迫力に圧倒され、強い感動を受けました。

**8月27日** パラグアイの首都にあるアスンシオン教会に招かれ、歓迎会・交流会の場をもつていただきました。日本の教会の雰囲気とは違い、皆でアサードを食べながら、歌って踊って楽しく時間を過ごし、南米の特色を肌で感じました。ここで日本人メンバーは「ソーラン」を踊り、歌を披露しました。また昼食後は、アスンシオンの学生メンバーたちと、全力でサッカーをしました。

**8月28日** レダに残る人以外、帰国の途に就きました。



ラパーチョとブーゲンビリアとレダの公館。8月下旬



レダからカナン牧場に向かって進む。8月18日



当会の現地法人がディアナ村に寄贈した児童むけ遊具。8月20日撮影



カナン牧場を見学を訪れる。8月18日

### 参加者の感想文より

【抜粋】これまで私の夢と

神様の夢との接点は、途上国支援や、勉強したことを誰かのために使う「ために生きる」ことに通じているかどうかが肝要だと思っていました。けれども、それを超えて、私は親なる創造主に圧倒的に愛されているから、その方が愛している世界や自然を愛したいんだ。つまり原点は「親子だから」というシンプルなものだと感じるようになりました。

このような実感を通して、私はいつも愛されている！いつも一緒に色んなことをしたい！そのようなワクワク感を持って、毎日、志に燃える私になっていきたいと思うようになりました。

本プログラムには、大きく二つの動機を持って参加しました。ひとつは、今まで農業経済、畜産と専攻してきて、レダの地ではどのようになされているか知り、真に願わしい畜産の形とは何か模索していきたいということ。これについては、レダで養豚プロジェクトを体験し、カナン牧場で牛の放牧についてお話を聞くことで接点を強く感じました。

養豚も牛の放牧も、日本の畜産現場では考えられないくらい広い土地で放牧されていて、良い意味で、人間慣れし過ぎていない動物たちの本来の習性が観察できて面白かったです。

養豚では、所長から「放牧された豚はストレスがないためか、肉質は良いと評判だが、豚の品種や繁殖の管理が細かくされているわけではない」との話を聞きました。そこで、家畜として収益に繋げながら発展させるなら、例えば日本にある肉質を測る機械を導入して、繁殖の交

配を少し工夫するだけでもっと繁殖力や生産性が上がって、規模拡大に繋がるのではないかと考えました。

また、竹内さんが養豚を管理されていた当時の話を聞いて、(先住民)チャマコ族の方々から学ぶことの大切さや動物に対する感性を磨くことで、より本然の主管ができるようになるとのイメージが広がりました。

カナン牧場の牛の放牧では、飼料は野草なので、飼料にほとんどお金がかからないという話に驚くとともに、飼料の栄養価や牛の種類の違いによって肉質や肥育方法は違うのか気になりました。

勉強してきたことが、完璧ではないけれど、パズルのようにレダの課題との接点が見えてきて、天の意図があつて私の選択と本プログラムがあつたのかと感じるほどでした。

また、イメージが広がるのが本当に新鮮で楽しくて、もっと学んで実力を身につけたいという意欲が高まりました。

一方で、日本や先進国で次々と発展している先端技術の導入と、創造本然の自然保護と「共生」の正解は何か、トライアンドエラーで模索していく必要があるテーマだけに、そこにまた難しさも感じました。

新しいことが必ずしも正解ではないと思いますので、私がこれから学ぶ観点として、一般的な持続可能性のスタイルに惑わされず、神が望む「共生」のスタイルを追求してみたいと考えました。これからすぐにレダで畜産に関われる訳ではないのですが、私はレダに何かしらの形で還元する専門性、構想を持ちたいと感じています。

## レダの電気屋さん

【第3回】 今回は、レダの電気事情について少し説明いたします。

まずプラグアイの一般家庭・オフィス用の電源は、220ボルト、50ヘルツです。

コンセントは基本的に丸型端子なのですが、日本で使われる平型プラグも差し込めるようになっていきます。最近では、USB充電器や、パソコンのACアダプタなど、100ボルトから240ボルトまで使えるものが多いので、その場合はとても便利です。しかし、100ボルト専用製品のプラグを、うっかり220ボルトのコンセントに差し込んで、貴重な製品を壊してしまう原因にもなっていますので、便利とは言え考えものです。

また少し細かい話になりますが、実は、丸型端子にも太いものと細いものがあります。細いものは10アンペアまで使用できるのに対し、太いものは16アンペアまで使用できます。太いものは電力が大きいエアコンやヘアドライヤーなどで使用されます。

以前、ヘアドライヤーの太いプラグを細いタイプのテールタップに無理やり差し込んで使い、テールタップをダメにした方がおられました。細かい点ですが、間違えると火事にもなりかねませんので、よくよく注意したい内容です。(山崎茂章)



## あなたの腕と経験をレダで活かしませんか(3)

レダはあなたの力を求めています。あなたの培った技能や技術を、究極の現場で発揮してみませんか。

■看護師…レダには医療機関がありません。緊急の場合は、レダからポートで2、3時間以上かけて、約100キロメートル下流のフェルテ・オリンポ市の病院に患者を連れて行くか、その病院で手に余るような症例では、陸路または空路で大都市の病院に搬送するということが、これまで普通でした。



去る8月より、日本の篤志ある医師のグループによって、日本とレダをつないでリモート診療を行う態勢が確立しつつあります。そこで、そのメリツトを最大限に活かすために、レダ側に最低でも1名の看護師が常駐することが願われるのです。

レダで人々の看護をしながら、医薬品、医療用品、保健室などを計画的に整備・充実させ、また日常の環境衛生を改善していくなど、あなたができるプロフェッショナルな仕事は十分にあります。

レダには真面目で有能な働き手が多くいます。そこで、あなたの助手となる人を、あなた自身の手で育てることもできるでしょう。

将来はレダの「実証実験」を参考モデルとして、プラグアイの医療従事者たちによる、チャコ地域の住民のための医療サービスが充実していくことも考えられます。それには、まずレダで実行しなくてはなりません。あなたがその先駆者になってください。

●食品管理者…本紙239号でお伝えしたように、レダにおける食材の調達と管理は、チャパボラ二期生の大野さんによって、画期的な改善がなされました。その大野さんはレダでの滞在を3か月延長して、この9月に帰国の予定です。その後のレダは、プロジェクトの発展に伴う住人や訪問者の増加に対応するため、管理マインドを持つ新たな人材が必要です。お問い合わせは下記の事務局へお願いします。

**一般社団法人  
南北米福地開発協会 事務局**

〒213-0001  
神奈川県川崎市高津区  
溝口3-11-15  
岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821  
FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行  
記号10280 番号61349751  
一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール: office@asd-nsa.com  
ホームページ: https://asd-nsa.com  
Facebook: https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

**レダ・プロジェクト紹介  
用パンフレットPDF版**

紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。

<https://asd-nsa.com/sk/>

**レダの短編動画**

- 草刈り中に見つけたねずみの赤ちゃん
- カナン牧場の鶏のひよこ
- すさまじいレダの風雨
- 第5回エスパンサ村教育プロジェクト